

World Vision

この子を救う。未来を救う。

World Vision News

新型コロナウイルス 感染症緊急対応

最もぜい弱な場所にいる
子どもたちに届ける支援

195

2020年 夏号
ワールド・ビジョン・ニュース

新型コロナウイルス感

最もぜい弱な場所にいる子どもたちに届ける支援



感染症緊急対応

昨年末にその存在が認められて以降、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は世界中を席卷しています。日本も例外ではなく、これまでに経験したことのない不安や不自由さと日々戦っています。しかし世界に目を向けると、私たちよりも危機的な状況にある人々・子どもたちがいます。医療体制が整わない場所、「ソーシャルディスタンス」が不可能な場所、ロックダウンが飢餓を意味する場所… あなたがこのような場所に住んでいたら、どうしますか？

ワールド・ビジョンは、このような場所に住む最も弱い子どもたちのための支援を進めています。

支援の4つの柱

ワールド・ビジョンの支援のゴールは、COVID-19の蔓延を防ぎ、弱い環境にある子どもたちとその家族への影響を軽減することです。そのため、次の4つを支援の柱として世界中で活動を進めています。



1 感染拡大の防止

コミュニティにおける感染リスクの軽減について、保健サービスと関連機関との連携を促し、協働します。これまでにを行った（チャイルド・スポンサーシップ等による）活動で養成された地域ヘルスワーカーや関係構築した宗教リーダーとともに取り組みます。

例

- ・石けんを使った手洗いの指導
- ・咳エチケット等の呼吸衛生の指導
- ・ソーシャルディスタンスの啓発など



2 保健システムと医療従事者のサポート

国の医療システムに与える影響を最小限に抑えるため、地域ヘルスワーカーを含む医療従事者に対するサポートとシステム強化を実施します。

例

- ・マスク、医療器具、防護用具の提供
- ・子どもの健康を守るヘルスケアチームの拡大
- ・地域ヘルスワーカーを通じた感染予防策の促進など



3 子どものケア

「教育」「子どもの保護」「食糧と生活」の分野で COVID-19 の影響を受ける子どもたちをサポートします。

例

- ・教育：家族が子どもを身体的に、社会的に、精神的にサポートするお手伝い（学習の継続を含む）
- ・子どもの保護：親などの保護者のケアを受けられない子どもたち、暴力を受けた子どもたちを対象にした社会心理的ケア
- ・食糧と生活：地域経済を回復・強化するためのアプローチで、最も弱い環境にいる子どもたちとその家族への食糧配布

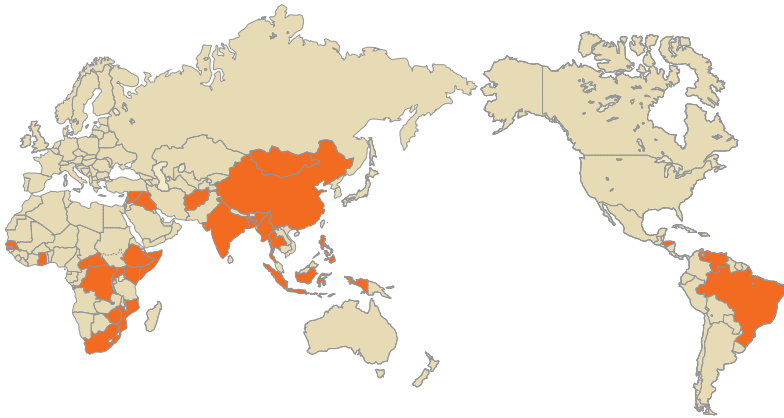


4 子どもの保護を目的とした協働とアドボカシー

国際社会や国内で決められる政策が子どもたちを守るものになるよう、関係機関と連携し、アドボカシーを進めます。

重点支援国を中心に世界中で支援しています

COVID-19の脅威から最も弱い場所にいる子どもたちを守るため、医療体制が弱い国や多数の難民・避難民を抱える国を中心に28カ国*を重点支援国に指定し、対応を強化しています。一方、チャイルド・スポンサーシップの支援地域をはじめとしたコミュニティでも、その地域に応じたCOVID-19対策を進めています。



*28カ国

シリア、モンゴル、バングラデシュ、中央アフリカ、ガーナ、モザンビーク、ジンバブエ、ミャンマー、エチオピア、ソマリア、ウガンダ、ルワンダ、タイ、フィリピン、インドネシア、インド、セネガル、ケニア、コンゴ民主共和国、南アフリカ、ハイチ、ブラジル、アフガニスタン、イラク、レバノン、ベネズエラ、ホンジュラス、中国
(順不同)



最前線の医療従事者に対する感謝や励ましのメッセージを届けている様子

フィリピン



各家庭を訪問し、ソーシャルディスタンスをしながらCOVID-19について説明しています

バングラデシュ



子どもたちに正しい手の洗い方を教えています


南スーダン




感染症や保健対策について学ぶスタッフ

ベトナム




 COVID-19の感染予防を啓発するポスター
インド




 遠方から馬に乗って緊急食糧配布を受け取りに来ている様子
モンゴル



 COVID-19の影響で職を失い食糧不足となった家庭に緊急食糧を配布しています
エクアドル



 ミャンマー等の隣国からタイに出稼ぎ労働に来ている人たちも理解できるように、各言語で COVID-19について説明している様子
タイ



ロヒンギャ難民キャンプ (バングラディシュ) 月に一度、石けんを配布しています(身体洗い用10個、洗濯用5個)



南スーダン難民居住地 (ウガンダ) 食糧配布所に入る前に検温をしている様子。体温が高い人は所定のテントに隔離し、経過観察します



シリア難民キャンプ (ヨルダン) 医療従事者への感謝と外出自粛を訴えるパネルを掲げる、シリア難民の子どもたち

最もぜい弱な場所にいる子どもたちの命を守ります。難民支援募金にご協力ください。

10年目を迎えるシリア紛争など、情勢が不安定な中で暮らす難民・避難民の子どもたちがいます。避難生活の場では医療設備が乏しいうえ、人口密度が高くなる傾向にあります。「3密」を避けることが難しいため、感染症の拡大が強く懸念されています。ワールド・ビジョンでは、手洗い等の感染予防策を伝えるほか、衛生用品の支援など、命を守る活動を進めています。恐怖の中にある子どもたちの命を守り、将来に希望を持てるように、募金にご協力ください

ワールド・ビジョン 難民支援募金

未来ドラフト 2020 ～わたしと難民が



[課題テーマ]

来年の夏※に来日する“難民アスリート”に注目を集めるための仕掛けを考えてください
右記の中から1つ企業を選び、その「お題」に沿って仕掛けを考えてください

※難民アスリートの来日が来年に延期になったため、文言を変更しています

エントリー受付期間 2020.02.03 (MON) — 03.15 (SUN)

	難民アスリートに注目が集まるような「料理イベント」を考えてください 場所:クックパッドオフィスキッチン
	テレビ東京ビジネスオンデマンドの「動画」「特集」「記事」を使って、難民アスリートの認知度と視聴・閲覧数を上げる仕掛けを考えてください
	難民アスリートに注目が集まるようなショッピングバッグデザインを考えてください
	今まで難民についてあまり知らなかった人が、難民アスリートについて「インターネットで発信しなくなる仕掛け」を考えてください。

「未来ドラフト2020」決勝大会進出を決めたベスト8 ～最年少は5歳！多くは高校生～

全国から寄せられたアイデアの中から決勝大会進出に選ばれたベスト8を紹介します。どれも素晴らしいアイデアで審査は白熱し、接戦でした！

※4月26日に開催予定だった「未来ドラフト2020 決勝大会」は新型コロナウイルス感染拡大防止のため延期となりました。日時が決まり次第、公式ウェブサイトにてお知らせいたします。

<p>クックパッド</p> <p>「世界中で母国デザート」 チーム名: チョコチーム (東京)</p> <p>「料理とスポーツで世界をつなげ！」 チーム名: ホンゴドリ (東京)</p>	<p>テレビ東京</p> <p>「難民アスリートによる、愛の言葉の訳し方」 チーム名: かれん (三重)</p> <p>「Student to Student」 チーム名: 成城生徒会 (東京)</p>
<p>ムラサキスポーツ</p> <p>「Walk hand in hand」 チーム名: けさでいーず (東京)</p> <p>「HOPE -難民アスリートは今日も-」 チーム名: HOPE BELL JAPAN (千葉)</p>	<p>ヤフー</p> <p>「Flag Action ～応援の旗をふろう～」 チーム名: なつとわか (愛知)</p> <p>「デジタルチャリング～花火xネット募金～」 チーム名: K-Diffusionors (東京)</p>

つながるアイデア・コンペティション～

未来ドラフト 2020 アイデア発想イベント～特別トークセッション+アイデア発想ワークショップ～

池上彰さん等が若者に向けて難民問題・難民アスリートを解説！

「未来ドラフト 2020 ～わたしと難民がつながるアイデア・コンペティション～」の関連イベント「アイデア発想イベント」を2020年3月8日（日）、無観客・ライブ配信型で実施し、若い世代を中心に約400名が視聴しました。また、登壇者への質問受付をデジタルサービスを利用して実施したところ、約80件の質問が寄せられ、若者の難民問題への関心の高さがうかがえました。

協力：コナミグループ 会場協力：esports銀座studio



池上彰さん

「難民をリスペクトすることが大事」

池上彰さんは「世界の難民問題」をテーマにシリア難民、南スーダン難民、難民受入れ国、難民キャンプでの生活などについて、ご自身の体験談も踏まえながら分かりやすく解説し、「難民は『かわいそうだから助けてあげなければならない存在』ではなく『たくましく自立できる存在』だ」と述べました。

また、「難民をリスペクトすることが大事。一人ひとりプライドをもっている。援助漬けになっていると、人間としての生きがいを失ってしまう。難民キャンプでもたくましく生活ができる。その自信とともに母国に戻り、国を建て直してほしい」と強調しました。

難民の中にも身体能力が極めて優れている人がたくさんいて、オリンピックを目指している人もいます。「難民だってオリンピックや国際大会に出ることができる」と知ったとき、彼ら彼女らにとってどれだけ希望となったことか、と想いを馳せながら話を終えました。



難民アスリートの想い

NHK 報道局ディレクターで、数々の難民アスリート取材してきた飯野真理子さんは「難民アスリートの挑戦」というテーマで講演。シリア出身の水泳選手、エチオピア出身のマラソン選手などの生活、言葉、想いを映像を用いながら紹介しました。「難民と呼ばれるけど、私は人間で市民。故郷がない人ではなく、故郷がある」「私たちは難民ではなく、同じ人間。他の人たち（難民）のことも考えられる人を人間と呼ぶのではないか」

また、「東京五輪は『共生』を学ぶ機会。（難民アスリートたちに）大事なことは必ず伝わると信じている。東日本大震災の時に世界中に助けってもらった日本が、どう優しさを循環できるかをみんなで考えたい」と熱い想いを語りました。



総司会を務めてくださったのはテレビ東京キャスターの塩田真弓さん



ライブ配信を視聴していた若者から届いた多くの質問にも応じました



協力企業が「お題」へのヒントとなるような内容をお話いただきました。左から WVJ 堂道スタッフ、ムラサキスポーツ（株）金銘敏さん、クックパッド（株）小竹貴子さん、（株）テレビ東京 古井大嗣さん

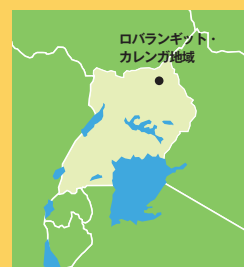


8年ぶりに新しい地域開発プログラムが始まります！

現在ワールド・ビジョン・ジャパン（WVJ）は、チャイルド・スポンサーシップを通じて 21 カ国 42 地域を支援しています。2020年10月* から、新しい地域開発プログラムが始まります。WVJ が新しい地域で支援を始めるのは 2012 年以来と、実に 8年ぶりです。今回は、新しく始まる支援地域の 1つ、ウガンダ共和国のロバランギット・カレンガ地域をご紹介します。

ウガンダ共和国って？

アフリカ大陸の東、赤道直下に位置する内陸国です。南部は、ナイル川の起点となるビクトリア湖に接し、日本の本州とほぼ同じ広さです。公用語は英語ですが、スワヒリ語、ルガンダ語も使用されています。宗教はキリスト教が主流となっています。



ウガンダ基本 DATA
正式名：ウガンダ共和国
首都：カンバラ
面積：24.1 万平方メートル
人口：4,286 万人
宗教：キリスト教 (6 割)、伝統宗教 (3 割)、イスラム教 (1 割)
略史：1962 年にイギリスから独立

(出典：外務省)

ロバングット・カレンガ地域って？

ロバングット・カレンガ地域は、ウガンダ国内だけでなく、世界でも最も貧しい地域の1つとされる北東部のカラモジャ地方に位置しています。カラモジャ地方の子どもたちの74.5%が最も弱い立場にいとされています。合計特殊出生率（1人の女性の平均出生数）は、国平均が約5.6%に対し、カラモジャ地方は7.9%と国内で1番高いです。しかし、医療施設や水衛生施設が大いに不足しているため、妊産婦死亡率は高く、子どもの栄養状態に大きな問題を抱えている状況です。教育へのアクセスも乏しく、10歳以上の識字率は約27%と国平均（約74%）を大きく下回っています。また、女性や子どもに対する暴力や差別が多いなど、様々な課題を抱えている地域です。



カラモジャ地方の子どもたち



地域住民へのインタビューの様子

なぜロバングット・カレンガ地域が選ばれたの？

ワールド・ビジョンとウガンダ政府で実施した、ぜい弱な地域に対する調査により、特に子どもの貧困が深刻で、子どもへの支援が少ない北東部カラモジャ地方が選ばれました。そこで、カラモジャ地方の中で、チャイルド・スポンサーシップ・プログラムが実施できるかどうかを確認するため、地方政府や地域住民へのインタビューを行いました。人の流出が少なく、人口が安定していること、政治的リスクが低いこと、また活動実施について住民の賛同が得られたことから、カラモジャ地方のロバングット副郡とカレンガ副郡で行うことになりました。

ロバングット・カレンガ地域の最も弱い立場にいる子どもたちがより良い未来を築けるよう、子どもたちやその家族、地域の人々のために活動してまいります。



地域住民と活動内容について話し合っている様子



※新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の世界的な感染拡大の状況により、上記地域開発プログラムの開始時期に変更が生じる場合があります。



ケニアのお母さんをもっと元気に！

塩野義製薬と取り組む母子保健事業が新たなステージへ

塩野義製薬株式会社（塩野義製薬）と社員からの寄付により、ケニアの母子を支援する「Mother to Mother SHIONOGI Project」。2015年10月～2020年9月にかけてケニア南西部ナロク県イラマタク地域（対象人口：約1.46万人）で実施し、母子保健サービスの強化とコミュニティ保健人材の育成、地域住民への啓発、政策決定者に働きかけるアドボカシーを展開してきました。



第一期事業で開設した診療所で生まれた赤ちゃんとお母さん

そして2020年4月から、ケニア東部キリフィ県（対象人口：約7.7万人）で「Mother to Mother SHIONOGI Project」第二期事業が始まりました！これまで培った知見をベースに、地域の保健施設・サービスの整備に加えて、保健施設の上位層にあたる地域病院との連携を強化します。政府、保健施設、住民などに対して適切なアプローチを行うことで、保健システムの持続的な質向上と、お母さんが安全に出産・育児ができる保健サービスの充実を目指します。

企業と NGO それぞれの強みを生かし、SDGs の達成に貢献していきます。ご期待ください！



「私たちの学校は生まれ変わりました」 マイルストーン・プロジェクト実施報告

「マイルストーン・プロジェクト」は、一口あたり100万円のご寄付を複数の方々からいただき、共同で一つの事業を実施するものです。共同でご支援いただくことで、より規模の大きい事業を実施し、子どもたちの必要に応えることができます。

2019年はイラクのニナワ県タル・アフアル市において、紛争によって破壊された女子中学校と小学校の校舎修復、学校備品・学用品の整備を実施しました。対象の小学校に通うエスナちゃん（仮名。小学校6年生）は、本プロジェクトによる修復支援が決まったことを知った時、「奇跡が起きた！」と喜んだそうです。「私たちの学校は生まれ変わりました。みんなとても喜んでます。日本のみなさん、ありがとうございました。私はこの学校で、いっしょうけんめい勉強したいです。そして将来はお医者さんになって、みなさんが私たちを助けてくださったように、困った人を助けてあげられる人になりたいです」（エスナちゃん）



修復後の教室で勉強するエスナちゃん



戦時に燃やされてしまった天井や壁、バリゲードに使われた机や椅子もすべて取り換え、子どもたちの笑顔あふれる「教室」に戻りました

2020年の「マイルストーン・プロジェクト」は、同じニナワ県のシンジャー地区で学校4校の校舎修復支援を実施する予定です。詳細はホームページをご覧ください。

マイルストーン・プロジェクト 🔍

☕ WVカフェに参加してみませんか？WVスタッフが、あなたの街を訪れます！

「チャイルド・スポンサー同士で話せるのが楽しい！」「現地に行った方のお話が聞けて活動のことがよくわかりました」と好評のイベント「ワールド・ビジョン・カフェ（WV カフェ）」を全国各地で開催しています（参加費無料）。支援地域の子どもの様子や活動状況を、写真や動画を交えて報告します。参加ご希望の方は、事前にホームページからお申込みください（締め切りは開催日の3日前です）。



2019年11月 WVカフェ in 東京の様子

! ※ 新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、3月～5月に開催を予定していたWVカフェは中止いたしました。今後も状況により開催予定が変更になる場合があります。ご来場前に、ワールド・ビジョン・ジャパンのホームページで開催の有無をご確認ください。

<p>宮城 日時：2020年6月13日(土) 14:00～16:30 (13:30 受付開始) 会場：仙都会館 4階会議室 宮城県仙台市青葉区中央 2-2-10</p> <p>茨城 日時：2020年6月27日(土) 14:00～16:30 (13:30 受付開始) 会場：ザ・ヒロサワ・シティ会館 集会室7号 茨城県水戸市千波町東久保 697</p> <p>富山 日時：2020年7月4日(土) 14:00～16:30 (13:30 受付開始) 会場：富山県民会館 706会議室 富山県富山市総曲輪 4-8</p> <p>石川 日時：2020年7月5日(日) 14:00～16:30 (13:30 受付開始) 会場：金沢市文化ホール 多目的ルーム 石川県金沢市高岡町15-1</p>

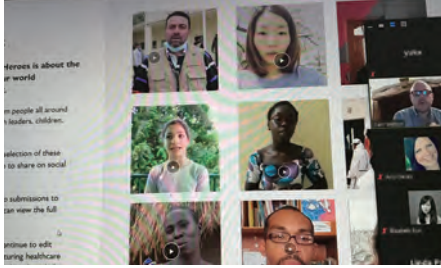
WVカフェについてのお申込み・お問い合わせは **WEB から**

💻 ワールド・ビジョンのリモートワーク

新型コロナウイルスの影響により、WVJ も 3 月中旬頃から在宅勤務を実施しています（このニュースレターが届く頃は、どうなっているかな）。基本的に全スタッフが在宅勤務、時々事務所に足を運ぶスタッフが 2-3 名いる程度です。そのような中でも、全体ミーティングは毎日欠かさず実施。初めは接続不良や音声トラブル等、色々な珍事件が起きていましたが、少しずつ安定し、笑顔も増え、業務もスムーズになってきました。緊急対応に強い NGO であり続けるために、今後もあらゆる事態を想定し、万全な備えをしたいと思います。



全体オンライン会議の様子（毎日15分。火曜日は45分）



COVID-19に関する海外オフィスとの国際会議もオンラインで頻繁に開催されています



本誌制作にあたり、自宅にプリンターがないのでコンビニでネットプリントしていた編集長（なんて便利な世の中になったのでしょうか）

世界に思いをはせて Vol.6. 事務局長 木内 真理子

このニュースレターが発行される6月、世界はどうなっているのでしょうか。今日は 4 月 15 日、この原稿の締め切りです。新型コロナウイルスの感染拡大で激動する世界を目の前にして、何を書いたらよいか、正直悩んでいます。悲観的なことは数えきれないほど、毎日の報道や SNS で目にします。一方で、助け合う姿や、この難局を乗り越えるための新しい知恵やテクノロジーなど、励まされる出来事もたくさんあります。この「励まされること」をもっと多くできれば、その先にこのウイルスとの戦いの終わりがあると信じて活動を続けていきたいと思っています。



3分でわかるチャイルド・スポンサーシップ

チャイルド・スポンサーシップについて、ご支援者の皆さまからよくいただくご質問をクマネコが分かりやすく解説するコーナーです。

第1回は、支援地域でチャイルドの選ばれる基準です。

支援地域のチャイルドはどのように選ばれているの？



支援地域によって、「チャイルド」として選ばれる基準は異なります。文化、社会、自主性を尊重しながら、支援地域ごとに基準を設定し、地域住民の話し合いで決まります。

以下は、バングラデシュとウガンダの基準例です。多くの項目に該当する子どもが選ばれます。



バングラデシュ

- ひとり親、親に捨てられた、貧しい親類に預けられている（最優先）
- 家族の平均月収が4,000 タカ（約5,100円）以下で経済的に貧しい
- 登録の時点で、年齢が0歳から7歳
- その地域の定住者である（必須）
- 保護者に子どもの教育に理解があり、ワールド・ビジョンのプログラム活動に参加する意思がある



ウガンダ

- ひとり親、親に捨てられた、障がい児、貧しい親類に預けられている
- 突発的な自然災害や人的災害の影響を受けやすく、経済的に貧しい
- 登録の時点で、年齢が3歳から8歳
- その地域の定住者である（必須）
- 保護者と子どもに、ワールド・ビジョンのプログラム活動に参加する意思がある



チャイルド・スポンサーシップ、
募金のお申込みはこちら

電話でのお申込み



0120-465-009

WEBからのお申込み



ワールド・ビジョン



World Vision News No.195 2020年6月発行 ワールド・ビジョンニュース

特定非営利活動法人ワールド・ビジョン・ジャパン

〒164-0012 東京都中野区本町1-32-2ハーモニータワー3F TEL 03-5334-5351(平日9:30~17:00) FAX 03-5334-5359

※新型コロナウイルス感染拡大防止への対応として事務局機能を縮小し、電話受付時間を短縮している場合がございます。ご了承ください。

dservice@worldvision.or.jp www.worldvision.jp

ワールド・ビジョン・ジャパンは、キリスト教精神に基づき世界の子どもたちを支援している国際NGOです

World Vision

この子を救う。未来を救う。